

祝 松戸市人口 50 万人到達 マイセンコレクション展

松戸市は令和 4 年度に実業家であり市内在住の ^{つち やりようへい}土屋 亮 平 氏よりドイツの ^{めいよう}名窯 マイセン磁器 152 点の寄贈を受けました。土屋氏のコレクションは 18 世紀初頭のマイセン設立から現代までを網羅する非常に貴重なコレクションです。特に初期のマイセン磁器からは日本、ひいては東洋の美意識と西洋文化の交流、融合を垣間見ることができます。本展では寄贈を受けたコレクションの中から約 38 点を公開し、華麗なマイセン磁器の魅力をご紹介します。

また、関連事業として、マイセン磁器の歴史や魅力について、作品を観覧しながら専門家に解説していただくギャラリートークを開催するほか、ポーセラーツ（磁器に転写紙で絵柄をつける技法）が体験できるワークショップを行い、展示作品の背景に広がる豊かな世界に入るための糸口になるようなプログラムも用意しております。

展覧会概要

●会 期 令和 7 年 2 月 1 日（土）～令和 7 年 3 月 9 日（日）

【プレス向け内覧会】

令和 7 年 1 月 31 日（金） 10 時～15 時

※ 学芸担当者が展示内容についてご案内します。

●会 場 戸定歴史館（松戸市松戸 7-1-4）※駐車場あります

●会館時間 9 時 30 分～17 時（入館は 16 時 30 分まで）

※月曜休館（祝日の場合は開館し翌日休館。2 月 24 日は開館し、翌 25 日休館）

●観 覧 料 一般 300 円（団体 240 円）、高校・大学生 100 円（団体 80 円）

※小中学生及び市内在住の 70 歳以上の方、身体障害者手帳、療育手帳または精神保健福祉手帳の交付を受けている方とその介護者（手帳の交付を受けている方 1 人につき 1 人）は無料、団体は 20 名以上

●出品点数 約 38 点

●展示構成（仮）

- I. マイセン磁器寄贈の経緯（パネル展示）
- II. 初期マイセン —— マイセンと東洋の磁器
- III. バロック、ロココの時代
- IV. 19 世紀～現代

出品作品（一部）

《金彩中国人物タンカード》1730 年頃 高さ 17.0×径 10.5 cm



18 世紀前半に最高潮に達したシノワズリー（中国趣味の美術様式）の金彩文様を施した蓋つきマグカップ。影絵風の金彩文様は 1725～1735 年頃に流行した。



【色絵花鳥果実文ディナーセット】1750 年頃

花や果物が描かれたディナーセルヴィス（ディナーセット）。皿やトレーの見込みには、木版画や銅版画に範を取った果物や花が色鮮やかに描かれている。



【金彩花飾り人物文飾り壺】1860 年頃 高さ 64.0 cm

クラテル（二つの把手をもつ広口の壺）形の飾り壺。体部には女性が描かれ、その周辺は写実的な花々で飾られて、見た目も豪華である。花々の花卉は一枚一枚作られ、また、おしべやめしべなども一本ずつ丁寧に作られており、その技術の高さと多大な労力を知ることができる。



【王冠金彩風景文宝石箱】1880 年頃 高さ 19.5 cm

蓋付きの小箱。宝石箱あるいは刺繍系などの手芸の道具を入れるための容器。蓋の摘まみは二人のプット（天使）が抑える王冠であり、プットの間にはザクセン侯の家紋が描かれている。本作の原型は、ポーランド王アウグスト3世の妃、マリア・ヨゼファのために、ヨアヒム・ケンドラーによって 1738 年に制作された。



【藍地金彩人物文双耳飾り】1900 年頃 高さ 68.7 cm

アンフォラ（二つの把手をもつ首付きの壺）形の飾り壺。本作は 1900 年に開催されたパリ万国博覧会出品作品。マイセン磁器製作所は万国博覧会に製品を出品することによって、製品の価値を高める戦略を取った。そのため、産業化と大量生産の時代にあったにも関わらず、時代に逆らうように技巧を尽くした豪華な製品を作り続けた。本作は、当時のマイセン窯製品の到達点を知ることができる資料でもある。



●関連事業

(1) ギャラリートーク

専門家が会場(展示室)で展覧会の見どころを解説します。

定 員 各回 15 名程度

参 加 費 無料 ※要展覧会チケット

参加方法 事前予約制(松戸市オンライン申請にて申込
※応募多数の場合は抽選)

所要時間 各回 40 分程度

日時・講師 ①令和7年2月9日(日)14時～
林 克彦氏(五島^{ごとう}美術館学芸部長)
「東洋の陶磁器とマイセン」
②令和7年2月15日(土)14時～
池田 まゆみ氏(北澤美術館主席学芸員)
「マイセンの魅力」

(2) ワークショップ

16 cmのプレートに転写シールを使用して絵付け体験をします。

焼成した作品は後日着払いにて郵送します。

日 時 令和7年2月22日(土)14時～16時

場 所 松雲亭(戸定歴史が丘公園敷地内)

定 員 20 名 ※松戸市在住の18才以上

参加費 2,200 円(別途送料)

参加方法 事前予約制(松戸市オンライン申請にて申込)
※応募多数の場合は抽選

講 師 嶋野^{しまの} 育代^{いくよ}氏(ポーセラーツサロン Puamana 主宰)

●主 催 松戸市教育委員会

●後 援 J O B A N アートライン協議会、北総線沿線地域活性化協議会

●協 力 新京成電鉄株式会社、流鉄株式会社

【本件に関する問い合わせ先】

〒270-2252 千葉県松戸市千駄堀671

松戸市生涯学習部文化財保存活用課

☎047-382-5570 FAX047-384-8194

✉ mcbunkazai@city.matsudo.chiba.jp

祝松戸市人口50万人到達

マイセン コレクション展

2025年

2月1日(土)～

3月9日(日)

開館時間：9:30～17:00
(入館は16:30まで)

休館日：毎週月曜
(2月24日は開館し、
翌25日休館)

戸定歴史館
TOJO MUSEUM OF HISTORY

入館料：

一般300(240)円

高大生100(80)円

(戸定邸との共通入館料)

一般500(400)円

高大生160(120)円

()内は20名以上の団体料金

※中学生以下、身体障害者手帳、療育手帳又は精神障害者保険福祉手帳の交付を受けている人とその介護者1名は無料(手帳をご提示ください)

※市内在住70歳以上の方は一般団体料金と同額(住所と年齢を確認できるものをご提示ください)

主催：松戸市教育委員会

後援：JOBANアートライン協議会、
北総線沿線地域活性化協議会

協力：新京成電鉄株式会社、流鉄株式会社



17世紀、ヨーロッパの王侯貴族や一部の裕福な商人の間では、日本や中国から輸入された東洋の磁器が流行していました。特にヨーロッパにはない透き通った白色の磁器は人々を強く惹きつけ、各地で東洋磁器が研究されましたが、その製造方法は長らく謎に包まれていました。

1709年、ドイツ東部の街マイセンで、ヨーロッパ初となる白色硬質磁器の生産に成功します。翌1710年、ザクセン公アウグスト2世の命により王立マイセン磁器製作所が設置されました。設立から300年以上経った現在も、マイセン磁器製作所は伝統的なラインから最先端のデザインまで多様な製品を生み出しつづけ、ドイツの名窯として世界的に知られています。

令和4年度、松戸市は実業家である土屋亮平氏よりマイセン磁器コレクション152点の寄贈を受けました。これらはマイセン設立から現代に至るまでを網羅する非常に貴重な作品群です。本展では寄贈を受けたコレクションの中から約38点を公開し、華麗なマイセン磁器の魅力をご紹介します。

●ギャラリートーク

専門家が展覧会の見どころを解説します。

場所：戸定歴史館展示室

定員：各回15名程度

参加費：無料 ※要展覧会チケット

参加方法：事前予約制(松戸市オンライン申請にて申込)

※応募多数の場合は抽選

所要時間：各回40分程度

講師・日時：

・林克彦氏(五島美術館学芸部長)

「東洋の陶磁器とマイセン」 2月9日(日)14:00～

・池田まゆみ氏(北澤美術館主席学芸員)

「マイセンの魅力」 2月15日(土)14:00～

●ワークショップ (ポーセラーツ体験)

16cmのプレートに転写シールを使用して絵付け体験をします。

焼成した作品は後日着払いにて郵送します。

日時：2月22日(土)14:00～16:00

場所：松雲亭(戸定歴史が丘公園敷地内)

定員：20名 ※松戸市在住の18歳以上。

参加費：2,200円(別途作品送料)

参加方法：事前予約制(松戸市オンライン申請にて申込)

※応募多数の場合は抽選

講師：嶋野育代氏(ポーセラーツサロンPuamana主宰)

※ギャラリートーク、ワークショップの申し込みは

「松戸市デジタル美術館」からご確認ください。▶▶



〔展覧会に関するお問合せ〕

松戸市教育委員会文化財保存活用課

TEL: 047-365-0858 (平日8:30～17:00)

E-mail: mcbunkazai@city.matsudo.chiba.jp



〔交通アクセス〕

松戸市戸定歴史館

TEL: 047-362-2050

〒271-0092

松戸市松戸714-1

JR常磐線・新京成線松戸駅

東口下車徒歩約10分

〔駐車場〕

・乗用車46台

・バス5台

※バスのみ電話にて要予約



1



3



5



7



2



4



6



8